

I

- 問一 (1) 取捨 (2) 繁華街 (3) 端的 (4) 乾電池 (5) 絵空事(絵虚事も正解)

問二 人は同じものごとを描写する場合であっても、関心の程度や関心の向かう先に応じて、描写するための言葉を適切に選択することから、ものごとの描写はさまざまなものになるという意味。

問三 ものごとの記述は、関心や行動と結びつくことで詳細なものになり、それに応じて、より具体的な物語の中で、ものごとは理解されるようになるように、ものごとの記述がものごとの理解に影響をあたえるという意味。

問四 眺める人と坂との位置関係だけでは、上り坂なのか下り坂なのかはきまらないうが、きつい上り坂をあがってきた、または坂を上がつてくる友人を待つというような、具体的な物語として坂を描写することで、はじめて上り坂として表現されるという意味。

問五 「見えない」が、対象を知覚できないことをいうのに対し、「ない」ということが見える」は、目の前に存在する対象を「ない」という意味付けのもとに認識することをいう。

II

問一 相手を攻撃し、責めるような鋭い調子が栄一の声にあり、栄一が弟に対して強硬な態度で臨んでいることがわかる。また、辰男が兄の言葉をそのように聞いていることから、これまでの兄弟の反りが合わない関係を暗示する効果がある。

問二 鳥を見送りながら英語の動詞を考えている最中に、そうした胸中を見透かしたように問われて驚いたこともあるが、そもそも英作文をするはつきりとした目的を持っていないから。また、どのように答えても兄には反論されてしまうと思っているから。

問三 先のように自分の勉強を頭から否定するのではなく、英語を本格的に学びたいと思表明する道を用意してくれた兄の心遣いは理解しながらも、辰男自身にその意欲がないし、兄がどこまで本気かわからないので、期待されているような返答をするつもりになれなかったということ。

問四 正規の教員になるなど、現実的な利益を得るための手段ではなく、目の前の事象や言葉に英訳という行為を挟むことで、現実と直接的に向き合わずに済み、人とはちがうことを

しているつもりにもなれるという、自己慰安の手段としての意味を持つ。

III

問一 (1) 私は、親のように思っているけれど

(2) 私は、(つい) とても泣けてしまうので

(3) 姉は、出発してしまおうとしている(出発してしまうのだろう)

問二 かのありし山寺

問三 喪服を着ていた時よりも悲しみはまさり、涙の川の水は岸からあふれるものであった(であるなあ)

問四 今はもう喪が明けたので、もうよいだろう、と弾き始めた

問五 琴を鳴らしてみたところで、亡き母が戻ってくるわけではないことが改めて思われ、琴を弾くのを止めた時のことが思い出されるだけで、ますます悲しくなる(のをわかってほしい)という心情

IV

問一 冠の係りの役人は、主君が寒かろうと思って、衣を主君の体にかけてあげた。

問二 冠の係りの役人が己れの職分を越え、衣服係りの仕事にまで手を出す越権行為を行ったから。

問三 もつてくわんをかすがいは、さむきよりもはなはだしとなす

もってかんをおかすのがいは、さむきよりもはなはだしとなす

問四 臣不^レ得^ニ越^レ官而^レ有^ニ功

問五 君主が臣下を治めるうえで肝要なことは、臣下に職分を守らせ、職務を

怠ったり（職務怠慢）、または職分を越えて手柄を挙げる（越権行為）のを許さ

ず、さらにまた、臣下みずから述べた意見（言葉）があれば、その通りに実行す

るよう働きかけることである。